

# 雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Phone 045-894-7474

## 秋の俳句「ベスト 10」

俳句は四季おりおりの自然の美しさや、それによって引き起こされる情感を5・7・5の17音にまとめる一種の定型詩で、完成は江戸時代、世界で最も短い詩と言われます。猛暑の夏も終わり、過ごしやすい秋の訪れに、浅学を忍んで「秋」に関する名句を紹介することとしました。ZFCの森の活動とは異なる世界を味わっていただければ幸いです。

1. 秋深き 隣は何を する人ぞ (松尾芭蕉)  
秋が深まり野山がどことなく寂しく感じられると、人恋しくなり、隣人のことなどが気になってくる。  
季語: 秋深き
2. 赤とんぼ 筑波に雲も なかりけり (正岡子規)  
空は秋晴れで遠くに見える筑波山の上には一片の雲もない。そんな空を一匹の赤とんぼがゆうゆうと飛んでいる。  
季語: 赤とんぼ
3. 秋空を 二つに断てり 椎大樹 (しいたいじゅ) (高浜虚子)  
真っ青に澄み切った秋空を、椎の大木がその空を断ってしまうかのような勢いでそびえている。  
季語: 秋空
4. おりとりて はらりとおもき すすきかな (飯田蛇笏)  
軽そうに見えるススキの穂も軽そうだが、折り取って手に持つと思いがけない重さだ。見た目には感じない、生命の重さを感じず。  
季語: すすき
5. 街道を キチキチととぶ ばったかな (村上鬼城)  
秋の日差しを浴びた人通りのない街道を一匹のバツタが跳び上がった。キチキチと鳴いて、飛んでは落ち、飛んでは落ちしている。秋静かである。  
季語: バツタ
6. 菊の香や 奈良には古き 仏たち (松尾芭蕉)  
菊の香がただよう奈良のまち。その香りの中に古い仏像たちがひっそりとたたずんでいる。奈良の秋が感じられる句である。  
季語: 菊の香
7. きつつきや 落ち葉をいそぐ 牧の木々 (水原秋桜子)  
きつつきがこつこつと木をつつく音が聞こえる。それにあわせるかのように、牧場の木々がしきりに葉を落としている。  
季語: きつつき
8. 行水の 捨てどころなし 虫の声 (上島鬼貫)  
行水の水を捨てようとしたが、あそこにもここにも、いい声で虫が鳴いており、水を捨てる場所がない。捨てれば虫の音を止めてしまうから  
季語: 虫の声
9. 桐一葉 日当たりながら 落ちにけり (高浜虚子)  
初秋の明るい中を、大きな桐の葉が一枚、陽の光をあびながら、ひらひらと落ちていった。秋の深まりをしみじみと感じている句。  
季語: きり一葉
10. 名月を とつてくれろと 泣く子かな (小林一茶)  
名月をとつてくれろとわが子が鳴いてねだる。それにこたえてやれない親のじれったさとこどもの可愛らしさがうかがえる。  
季語: 名月

## 1. 8月の主な活動

- ①7月30日(土) 炭だし 枯木伐倒 栄高校体験13時から15時 13名
- ②8月03日(水) 炭小屋内作業 6名
- ③8月06日(土) 炭小屋裏間伐 12名
- ④8月10日(水) 炭小屋内作業 10名
- ⑤8月13日(土) ツバキ伐倒 17名
- ⑥8月17日(水) 炭小屋内作業
- ⑦8月20日(土) 炭小屋内作業 10名
- ⑧8月24日(水) 炭小屋内作業
- ⑨8月27日(土) 納涼会(森の家バベークユウ場) 運営会 18名

## 2. 運営会の報告

- ①10月10日 柳生博さんのトークショーの参加募集 現在二名申し込み
- ②処デザイン学舎との提携の報告と承認

## 3. 9月活動予定

- ①8月31日(水) 炭小屋内作業
- ②9月03日(土) 食卓テーブル取り換え ZFC 通信印刷発送
- ③9月07日(水) 炭小屋内作業
- ④9月10日(土) トウネズ除伐 安全講習(刃物の手入れ)
- ⑤9月14日(水) 炭小屋内作業
- ⑥9月17日(土) 炭小屋裏間伐 運営会 午後桜林ツルきり
- ⑦9月21日(水) 炭小屋内作業
- ⑧9月24日(土) 間伐体験 ZFC 通信印刷発送
- ⑨9月28日(水) 炭小屋内作業

以上